

第2回宇都宮市社会福祉審議会児童福祉専門分科会

日 時	平成 16 年 3 月 24 日 (木) 午前 10 時 00 分 ~ 午後 0 時 00 分	
場 所	本庁 14 大会議室	
出席者	分科会長	伊達悦子委員
	分科会長職務代理者	瀬尾充男委員
	委員	渡辺通子委員, 風間嘉信委員, 加藤佳子委員, 大野照子委員, 金子耀誉委員, 今井恭男委員, 本田紀子委員
	市民参加者	浅香勉委員, 坪田淑子委員, 藪仁委員
欠席者	安納ミヤ子委員, 金子準二委員, 鎌倉三郎委員, 石井智子委員	
事務局	児童福祉課長, 児童福祉課長補佐, 保育担当副主幹, 管理係長, 大橋主任, 大山主任	
発言者	内 容	
分科会長	開 会	
	(課長挨拶)	
	(分科会長挨拶)	
	2 報告(1)次世代育成支援に関するニーズ調査【調査概要】について,事務局の説明をお願いします。	
風間委員	(事務局説明)	
	(質疑)	
事務局	宇都宮市の人口推計は,どこが出している数値なのか。	
事務局	コーホート要因法により市が独自に算出したものであり,庁内で統一して使用している。	
職務代理者	悩みを相談する相手として,民生委員,児童委員が0%という結果にはショックを受け反省しているが,相談についての活動報告は受けているので疑問に感じるところもある。入学式等の場をお借りしてPRしていきたい。	
事務局	民生委員,児童委員が活動していないということではなく,相談相手が民生委員,児童委員であるという意識が保護者側にないのではないかとと思われる。	
加藤委員	保護者側が自治会等地域との関わりを自ら断っていることが多い。社会人として地域で生きる責任を教育する場が必要である。	

藪委員	行政に対する不満に関する間で、対応が不親切であるという回答については、具体的にどこの窓口が分析しているのか。
事務局	分析していない。
風間委員	目標値を設定することになるが、保育園、幼稚園、学校がかつての個人商店のような地域の情報交換の場としての役割を果たさなければならない。子育て支援の拠点作りについては目標を高く持っていきたい。
分科会長	保育園には、保育の場としてだけでなく、親の教育の場としての役割も求められている。
渡辺委員	保護者の意識が変わり、保育園では親に対して育児の指導をしにくい状況になっている。親を教育することが必要である。
分科会長	保育園には相談機能を持たせることが必要である。
坪田委員	保護者はどんな情報でも得られる場所を求めている。幼稚園、保育園の案内の冊子は情報量が少ないのでもっと詳しい内容を知りたい。
金子（耀）委員	詳細に載せるということになるとボリュームも大きくなるし、最終的には自分で見て決めてもらいたい。体験教育や保護者から情報を得るなどして自分の目で決めて欲しい。
風間委員	民間保育園は、どこも子育てサロン事業をやりたいと希望している。各保育園で実施できるよう希望している。
金子（耀）委員	幼稚園の預かり保育希望者が多いという結果が出ているが、実際は一割しか利用していないという実態を認識して欲しい。
分科会長	本田委員に事業者行動計画の説明をお願いしたい。
本田委員	従業員301人以上の事業所は市内に50社弱ある。 現在事業者に対し周知活動を行っているところである。 (別紙パンフレットにより説明)
坪田委員	夫の会社に育休等の制度があるのかもわからない。計画の内容を家庭に周知することを計画に盛り込めないのか。

本田委員	事業者は、社員に対して行動計画を周知することになっている。
今井委員	従業員301人以上の企業については組合もあり、労働問題に関しては古くから取り組まれている。それ以下の小さい企業が問題である。説明会等での感触はどうか。
本田委員	感触についてはよくわからない。
風間委員	先行市の計画は参考にするのか。
事務局	参考にしていきたい。
事務局	<p>(3.その他 今後のスケジュールと進め方説明)</p> <p>閉 会</p>